

公益財団法人 大隅基礎科学創成財団

第6期（2022年度）事業報告

（2022年8月1日から2023年7月31日）

## 報告内容

### I. 事業の実施状況

- 1. 基礎研究の助成事業 2
- 2. 研究者と社会との新たな連携を構築する事業 3

### II. 管理業務

- 1. 財団の体制整備に関する事項 5
- 2. 理事会及び評議員会の開催 5
- 3. 選考委員会の開催 6
- 4. 寄付・会員の状況 7
- 5. 広報活動 7

公益財団法人 大隅基礎科学創成財団  
第6期（2022年度）事業報告  
（2022年8月1日から2023年7月31日）

当財団は、日本社会の科学基盤の発展に寄与することを目的として、2017年8月9日に一般財団法人として創設、2018年8月1日に公益財団法人に認定された。

第6期は前期に引き続き、基礎研究の助成事業及び研究者と社会との新たな連携構築事業の2つを柱として活動した。研究助成への応募総数は150件を超え、前期と同規模の助成を行った。研究者と社会との新たな連携構築事業では、創発セミナーは新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン開催を中心として実施された。微生物機能探究コンソーシアムは、参加企業が増え、活動が広がった。

管理業務においても、理事会、評議員会はすべてオンライン開催とした。

第6期の事業の実施状況、及び管理業務について報告する。

I. 事業の実施状況

1. 基礎研究の助成事業

第6期研究助成は、2022年5月6日～6月30日の期間に公募を行った。基礎科学（一般）123件、基礎科学（酵母）30件の応募があり、選考委員による書類審査を行い、選考委員会を開催して厳正に審査し採択候補を選定した。採択課題は、2022年9月21日理事会で承認された。第6期までの助成件数と採択金額を表1に示す。第6期の基礎科学（一般）及び基礎科学（酵母）の研究助成対象者と研究課題をそれぞれ表2-1、表2-2に示す。

表1. 研究助成の助成件数と採択金額 （金額単位：千円）

	基礎科学（酵母）		基礎科学（一般）		計	
	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額	助成件数	助成金額
第1期	4	10,000	-	-	4	10,000
第2期	3	12,000	9	32,700	12	44,700
第3期	3	12,000	8	48,000	11	60,000
第4期	3	12,000	9	48,000	12	60,000
第5期	3	12,000	10	48,000	13	60,000
第6期	3	12,000	8	48,000	11	60,000
計	19	70,000	44	224,700	63	294,700

表 2-1. 第 6 期 基礎科学（一般）研究助成対象者及び研究課題 (五十音順)

氏名	所属	研究課題
伊藤 道彦	北里大学	異種交配における片親種ゲノムの選択的欠失の分子機構～種アイデンティティ（種とは何か）を探る～
井上晋一郎	名古屋大学	マグネシウムイオンによる新奇気孔開口誘導機構の解明
岡村 勝友	奈良先端科学技術大学院大学	非典型的リボソーム RNA 生合成経路で産生される非典型的 miRNA の生合成機構の解析
島田 裕子	筑波大学	寄生蜂の生存戦略を支える分子機構の解明
竹内 勇一	富山大学	ニューロゲノミクスによる利き行動制御の解明
武尾 真	理化学研究所	ニッチスイッチングによる新たな形態リズム創出メカニズムの解明
野口 巧	名古屋大学	翻訳後アミノ酸変換による光合成酸素発生系の形成機構
野村 真	京都府立医科大学	化石人類特異的なアミノ酸変化によるヒト表現型進化の再構築

表 2-2. 第 6 期 基礎科学（酵母）研究助成対象者及び研究課題 (五十音順)

氏名	所属	研究課題
加藤 太陽	島根大学	新規のヌクレオソーム配置規則から迫るエピゲノム制御の理解
中山 潤一	基礎生物学研究所	胞子の休眠状態を制御するクロマチンの構造基盤
八代田陽子	理化学研究所	分裂酵母のオキシリピンを介した細胞間コミュニケーションの解明

2022 年 12 月 16 日に対面とオンラインのハイブリッド形式にて研究助成贈呈式を行い、理事長より助成対象者に贈呈書が授与された。基礎科学（酵母）の助成対象者には、併せて大隅基礎科学創成財団酵母コンソーシアムフェローの称号が授与された。

また酵母コンソーシアムフェローの今後の活動について議論した。Slack のチャンネルで、セミナーのテーマや課題について情報交換を行った。

第 7 期研究助成は、2023 年 5 月 8 日～7 月 3 日の期間に公募を行い、基礎科学（一般）134 件、基礎科学（酵母）23 件の応募を受け付け、選考を開始した。

## 2. 研究者と社会との新たな連携を構築する事業

### (1) 創発セミナー

財団の活動に賛同する基礎研究者と企業の研究者等が自由に意見を交わし、基礎科学と産業界の新しい協力関係を構築する場として創発セミナーを年間 8 回開催した（表 3）。新型コロナウイルス

ルス感染の状況を考慮し、8回中5回はオンライン開催とし、個人の支援者にも拡大して案内を出した。2022年12月の研究助成贈呈式、7月の感謝の集いは人数を制限して会場参加とオンラインのハイブリッド形式で開催し、2023年5月の酵母コンソーシアムは対面で開催した。

表3. 第6期創発セミナー

回	日程	場所	テーマ（演者）	参加者数
1	2022/10/2 (金)	オンライン	拡大し続けるタンパク質研究の最前線 (田口英樹氏、高木淳一氏)	110
2	2022/11/16 (水)	オンライン	[アドバイザー会議] 修士人材の価値をどう高めるか	21
3	2022/11/17 (木)	オンライン	[酵母コンソーシアム]“持続的な弱いストレス”への細胞の環境適応戦略 (石川冬木氏、井沢真吾氏)	85
4	2022/12/16 (金)	東工大& オンライン (ハイブリッド)	[研究助成贈呈式]古代ゲノムが解明する日本人の成り立ち (篠田謙一氏)	94(会場参加17、オンライン参加77)
5	2023/2/10 (金)	オンライン	植物の代謝に学ぶ — 最新の進歩と広がる可能性 — (中村友輝氏、三村徹郎氏)	111
6	2023/3/8 (水)	オンライン	最新の研究から見えてくる微生物の世界 (野村暢彦氏、野尻秀昭氏)	109
7	2023/5/16 (火)	東大	[酵母コンソーシアム] 細胞が産生する有用物質～基礎と応用の視点から (八代田陽子氏、五味恵子氏)	50
8	2023/7/24 (月)	学士会館& オンライン (ハイブリッド)	[感謝の集い] 講演：花の中での秘めやかな受精：映像で見る植物の本質 (東山哲也氏)	134(会場参加54、オンライン参加80)

## (2) 市民講座

市民講座は市民及び学生に基礎科学の面白さや大切さを理解してもらい、科学の振興を支援する文化を醸成すること及び地域社会への貢献を目的としている。2022年8月21日（日）、「生き物の豊かな世界」をテーマにオンラインで開催した。全国から150人が参加、理事長のあいさつの後、新美輝幸氏（基礎生物学研究所教授）が「カブトムシの角づくりの謎を解き明かす」、野田口理孝氏（名古屋大学生物機能開発利用研究センター准教授）が「持続可能な農業を目指した接ぎ木の研究」をテーマに講演、活発な質疑も行われ盛況のうちに閉会した。

## (3) 次世代を担う小中高生と研究者のふれ合いの集い

次世代を担う人材を育てるために、小中高生が最先端の科学に触れ、科学者と交流する場とし

て、小中高生と最先端研究者とのふれ合いの集いを開催した。第6回は2022年9月25日(日)に、アクリエひめじ(兵庫県姫路市文化コンベンションセンター)で開催、185名が参加した。西村いくこ氏(甲南大学・京都大学名誉教授)が「しなやかに生きる植物から学ぶ」と題した講演、梅園良彦氏(兵庫県立大学教授)の「できる・できない ~プラナリアから学ぶ再生原理~」をテーマとした講演の後、本財団理事長の大隅良典が「私のノーベル賞受賞の研究と小中高生に伝えたいこと」と題して講演し、小、中、高校生から多くの質問が寄せられた。その後、参加者は、大学、博物館並びに企業が出展した科学体験ブースに移動して、実験・観察などの科学体験を楽しんだ。

第7回は2023年3月11日(土)に、福井県民ホール(福井市)で開催、会場とオンライン合わせて約500名の小中高生が参加した。本財団理事長の大隅良典が「細胞：みごとなりサイクルシステム」と題して講演し、小、中、高校生からの多くの質問に回答した。

#### (4) 微生物機能探究コンソーシアム(略称、微生物コンソーシアム)

微生物コンソーシアムは、アカデミアと企業が連携して微生物学の発展を図ることを目的として、2020年12月に発足した。2022年度は、活動の3年目として、定例会と全体会を開催するとともに、年度の途中に参加企業を3社増やした。

2022年度のグループごとの定例会6回、全グループ合同で開催する全体会を3回(うち1回はオンライン、2回は対面)開催し、微生物学に関する研究紹介、話題提供をして議論を行った。活動には参加企業からの会費を充てた。

コンソーシアム運営に関する事項を審議するために、財団理事、グループリーダー及び企業からの委員、計12名で構成される運営委員会を置き、審議結果は財団の理事会に上申した。微生物コンソーシアムの活動のひとつとして「プラスミドDB構築」を実施した。

#### (5) 企業等の課題解決に向けた相談対応

実施なし。

## II. 管理業務

### 1. 財団の体制に関する事項

2022年10月11日の第5回定時評議員会において承認された2021年度事業報告及び計算書類等の定期提出書類、及び2023年7月25日開催の理事会において承認された2023年度事業計画及び収支予算に基づく事業計画に係る定期提出書類を内閣府に提出し、財団のホームページに掲載した。

### 2. 理事会及び評議員会の開催

#### (1) 第1回理事会(2022年9月21日)(オンライン開催)

第1号議案 第5期(2021年度)事業報告・計算書類の承認の件

第2号議案 第6期研究助成の決定の件

第3号議案 第5回定時評議員会招集の決定の件

- (2) 第5回定時評議員会（2022年10月11日）（オンライン開催）  
第1号議案 第5期（2021年度）事業報告・計算書類の承認の件
- (3) 第2回理事会（2023年1月18日）（オンライン開催）  
第1号議案 微生物コンソーシアムの『プラスミド DB 構築』を支援する件
- (4) 第3回理事会（2023年3月30日）（オンライン開催）  
第1号議案 プラスミド DB 構築事業支援 運営管理手順書（案）について
- (5) 第4回理事会（2023年6月5日）（みなし決議）  
第1号議案 微生物機能探究コンソーシアム規程改訂（案）について
- (6) 第5回理事会（2023年7月25日）（オンライン開催）  
第1号議案 第7期（2023年度）事業計画書及び収支予算書等の承認の件  
第2号議案 研究助成（一般）選考委員交代の承認について

### 3. 選考委員会の開催

#### 基礎科学（一般）

第1回選考委員会（2022年8月25日） オンライン開催

応募123名について、選考委員の書面審査の結果をもとに議論し、採択候補者を17名に絞った。

第2回選考委員会（2022年9月6日） オンライン開催

第1回選考委員会で選ばれた17名について、選考委員全員の二次評価結果をもとに審議し8名を採択候補、3名を補欠候補とし、最終的に選考委員長と理事長とで予算や充足率などを考慮に入れて決定することとした。9月16日、委員長と理事長で協議し、採択候補者8名、補欠候補者3名を確定し助成金額を決定した。

理事会（2022年9月21日）

理事会において8名の採択候補者が承認され、採択候補が同様の研究課題で他の高額の研究助成に採択された場合は、補欠を繰り上げることが承認された。9月24日、選考委員長と理事長で協議し、さきがけに採択された1名を外し、補欠1の研究者を繰り上げて8件を採択として助成金を確定した。

#### 基礎科学（酵母）

第1回選考委員会（2022年8月22日） オンライン開催

応募30件について各委員による採点順位を元に意見交換を行い、各委員からの評価、意見を詳細に検討、議論して採択候補者として3名を選出した。

第2回選考委員会（2022年9月6日） オンライン開催

一次選考の結果をもとに議論し、採択候補者3名、補欠候補者2名を確定し助成金額を決定した。

理事会（2022年9月21日）

理事会において3名の採択候補者が承認された。

#### 4. 寄付・会員の状況

第6期は、個人、法人・団体からの寄付、法人会員年会費、及び微生物コンソーシアム年会費として総額110,066,748円を受領した。寄付の状況、及び毎月の収支については、理事長及び常勤理事と事務局の週次打合せにおいて報告を行った。

第6期の寄付、会員の状況は表4の通り。

表4. 寄付及び会費の状況

	個人	法人・団体寄付	法人・団体会費	計
第 6 期	26,806,748円 (370件)	28,260,000円 (26件)	23,500,000円 (法人年会員17件)	110,066,748円
	(内訳) ・一般寄付 16,806,748円 (369件)	(内訳) ・一般寄付 4,410,000円 (14件)	31,500,000円 (微生物コンソーシアム 年会費15件)	
	・特別寄付 (使途指定) 10,000,000円 (1件)	・特別寄付 (使途指定) 23,850,000円 (12件)		

#### 5. 広報活動

財団ホームページに財団の事業及び活動の紹介を適宜行い、2023年1月、及び2023年6月に財団の支援者に財団の活動の様子を知らせるニュースレターを送付した。

財団Twitterにて財団のイベントや理事長の活動について17回の投稿を行った。

第7期研究助成の公募について関連25学会に連絡し、学会ホームページへの掲載及び学会からの案内送付を依頼した。研究助成の応募者へのアンケートで当財団の研究助成を知ったきっかけとして「学会からの案内」との回答は回答全体の14.7%であった。

以上